



# 統合報告書



独立行政法人国立高等専門学校機構  
鳥羽商船高等専門学校



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

鳥羽商船高等専門学校は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

令和5年3月

## 目次

法人の中期目標	1
本校の原点とビジョン	2-5
1. 概要	6-10
2. データでみる学生の受け入れ	11-13
3. データでみる教育の質保証	14-17
4. 教育等環境整備と学生への支援	18-23
5. 広報、産学連携・他機関や地域との連携	24-27
6. データでみる財務状況	28
7. データでみる学生の活躍	29

## 法人の中期目標

当法人は、国立高等専門学校を設置・運営し、実践的・創造的技術者を養成し、社会構造・産業構造の変化に応じた国立高等専門学校の教育実施体制を整備し、実践的・創造的な技術者を育成するとともに、諸外国のニーズに応じた、我が国特有の教育制度である“日本型高等専門学校教育制度”の導入支援に取り組むため、各国立高等専門学校が有する強み・特色を生かしつつ、法人本部がガバナンスの強化を図ることにより、主に以下の三つの目標を実施し、我が国が誇る高等教育機関としての国立高等専門学校固有の機能を充実強化します。中期目標期間は、平成 31 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までの 5 年間です。

(1) **教育**に関する目標 実験・実習・実技を通じて早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという特色ある教育課程を通し、製造業をはじめとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、リベラルアーツ、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせることができるように、高専の教育実施体制を整備し、実践的・創造的な技術者を育成していきます。

(2) **社会連携**に関する目標 各高専が立地している地域の特性を踏まえた産学連携を活性化させ、地域課題の解決に資する研究を推進するとともに、高専における共同研究などの成功事例等を地域社会に還元し、広く社会に公開していきます。地域共同テクノセンター等を活用して、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取組を促進するとともに、その成果の知的資産化に努めます。

(3) **国際交流**に関する目標 各国の日本国大使館や独立行政法人国際協力機構（JICA）等の関係機関と組織的・戦略的に連携し、「日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）」の正しい理解を得つつ、海外における導入支援と高専の国際化を一体的に推進します。学生が積極的に海外へ飛び立つ機会を拡充するとともに、教員や学生の国際交流を安全面に十分な配慮をしつつ、積極的に推進します。学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取組みつつ、国際交流の中で優秀な留学生を適切に受け入れます。

(4) その他 (1)～(3)の目標を達成するため、マネジメント改革（財務構造、人事マネジメント、働き方改革、情報セキュリティ等）を確立します。

## 本校の原点



校祖 近藤真琴翁

伊勢志摩国立公園にあって伊勢市に隣接し、歴史的にも水軍の拠点、水運の要衝で知られる鳥羽市池の浦に立地する本校は、校祖近藤真琴翁が明治8年（1875年）9月に芝新銭座二番地（現在の東京都港区浜松町）に航海測量習練所（後の商船黌）として創基し、分校として、明治14年（1881年）8月20日に三重県鳥羽町に鳥羽商船黌として創立されました。その後、私立、市立、県立などの変遷を経て、昭和42年（1967年）6月に**国立鳥羽商船高等専門学校（国立鳥羽商船高専）**となりました。来る令和7年（2025年）9月には、創基150周年・高専創立60周年記念事業を計画しており、持続的に学校の施設整備や環境整備、国際交流や学生の修学支援等に資する基金の開設とともに委員会のもと作業部会が活動を開始しております。

創立以来、本校は我が国の産業界の変化に対応して順次学科の新設・改組を行い、平成17年4月には本科に加えて専攻科として海事システム学専攻、及び、生産システム工学専攻が設置されました。本科は、商船学科、情報機械システム工学科の2学科体制に移行しています。卒業生・修了生は、**令和4年9月で7,841名（令和5年3月7,927名）**となり、海運・海事産業、情報、機械など、我が国の産業界に技術者を輩出し、多くの産業の発展に活躍しています。



---

## ビジョン

海運や物流産業の様相は、常に国際政治や経済社会の縮図です。新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延が SDGs に至る超スマート社会（Society5.0）への変革の起爆剤となって、社会経済は、気候変動と環境変化、国際社会が織りなす紛争などの影響を受けて大きく変動しています。これらの変化は、情報通信はもとより、海運、物流、ロジスティクスに対する人々の関心を大きく高めました。あらゆる産業でデジタルトランスフォーメーション（DX）が着実に進みつつあり、政府の2023年年頭所感では、グリーントランスフォーメーション（GX）、DX、スタートアップ、イノベーションの4つのコンセプトが示されています。前者2つは特に成長分野とされ、本校の船舶運航はじめ海事・海洋産業に人材を輩出する商船学科と情報機械システム工学科こそ、今、社会から望まれている必要な学科です。

便利になった反面、情報を適切に利活用できて、共有するシステムをもっているかないか、もっていても有効に組織内で機能しているかで環境の格差が生じており、教育の現場においても例外ではありません。一方では、対面でのコミュニケーションの重要性も再認識されました。便利さとともに、“わきまえなければならないエシックス（倫理）”の問題もあらためて社会で顕在化しています。本校では教職員と学生が一体となって学校の生活環境の質の向上に努めていきます。

海洋基本法にもとづき5年ごとに策定される海洋基本計画、来る第4期では、脱炭素・DXに対応した海洋産業の競争力強化、ゼロエミッション船の導入、カーボンニュートラルポートの形成、また、自律運航船の実用化や港湾の電子化、さらには、洋上風力発電など再生エネルギーの利活用、資源探査に必要な水中ロボットの持続的な開発などに社会の関心が集まっています。

本校では、「人づくりを通じて海づくり：海事・海洋DX、情報や機械のシステム産業と地域経済に貢献するマリリゾート・コアキャンパスの創成（令和3年8月校長より法人理事長に提出済）」に向けて、練習船「新鳥羽丸」の構想、今後の施設・環境整備にかかるキャンパスマスタープラン（CMP）の構成、混住型国際寮の検討などを進めており、創基150年を迎える2025年を礎に世代や国境を越えたキャンパス、自然災害にもレジリエントなキャンパス整備に努めていきます。



鳥羽商船高専公式 YOUTUBE

---

## 商船学科と海事システム専攻

**商船学科（5.5年、准学士の称号授与）と専攻科海事システム専攻（2年 学士（商船学）の学位取得可）**を擁しており、商船系高専4校とともに特別の使命を持っています。周りを海に囲まれ世界第6位のEEZをもつ日本は、海上輸送によって資源を海外から輸入し、生産技術やシステム構築により、製品を輸出して経済を発展させてきました。最近、技術移転により、多くの生産拠点が海外に移り、製品も輸入量が輸出量を上回る時代へと変化していますが、日本の貿易物資の99%以上（重量ベース）が「船」で運ばれています。また、内航海運も貨物輸送では重要な役割を担っています。商船高専は、我が国の物流を支える最新で高度な技術を習得した海事技術者、海技士資格をもつ海のパシヤリスト、海洋立国を支えるグローバルに活躍できる人材を育成するという点において重要な使命を持っています。特に海運業界は、GHG排出削減に向けた代替燃料への転換などの環境問題、自動運航船や洋上風力発電などへの事業展開など急速な技術革新とともに大きく変貌しています。活躍する舞台、求められる能力も船上のみならず、先進技術の展開や海運にかかる総合的スキルを活かしたマネジメント力まで大きな期待が寄せられています。



<https://youtu.be/gMkY3H2qEMs>

「鳥羽商船高等専門学校 学生会 練習船鳥羽丸 PV ～鳥羽丸のすべて～」

※2021年12月5日に開催された第56回海学祭配信

## 情報機械システム工学科と生産システム工学専攻

平成 31 年(2019 年)に**電子機械工学科及び制御情報工学科を改組し、情報機械システム工学科(5 年、准学士の称号授与)を開設**し、令和 4 年度は電子機械工学科及び制御情報工学科の第 5 学年と新学科の第 4 学年までの学生が在籍しています。**専攻科生産システム工学専攻(2 年、学士(工学)の学位取得可)には、本校はじめて高専の本科を卒業して進学した学生が在籍**しています。新学科入学後は、プログラミングを始めとする工学基礎を学び、基盤となる「情報」「電気電子」「機械」について順に学習し、上級学年では自らの個性や特性に合わせて「専門性」「志向性」を決定するオーダーメイド型カリキュラムを提供します。



<https://drive.google.com/file/d/1M8NM9JExAqPqG-87n7OKgwkpxDv5hWfkz/view?usp=sharing>

地域課題を解決する PBL (Project Based Learning) チームに学年通貫で 1 年生から所属し、机上の学習に留まらず、地域産業や文化を理解し工学的な解決法を提案できる実践的技術者を目指します。地域や社会と一体となったコミュニティ型の教育を導入しています。本科を卒業して准学士の称号をもって就職、大学 3 年次編入、また専攻科に進んだ人はさらに 2 年間修学し、学位(工学)の取得が可能です。

経済のグローバル化、機械や電気電子、情報産業技術の高度化、さらには新型コロナウイルス感染症の影響やデジタルトランスフォーメーション(DX)が加速的に急進展する現在、国の教育基本振興基本計画の今後の目的としても、超スマート社会の実現に向かうイノベーションに対応するため、数理データサイエンス・AI、ロボット等の分野での「実践的・創造的な技術者の育成と起業精神の充実」や「社会実装教育」、「地域への貢献」、「国際化の推進」が要請されています。情報機械システム工学科はソフトとハードを結ぶ教育を基盤にそれらの要請に応えます。

---

# 1. 概要

## □教育理念

進取・礼譲・質実剛健

## □教育目標

1. 人間性豊かな教養人となること
2. 創造性豊かな技術者となること
3. 国際性豊かな社会人となること

## アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

### 学科共通

礼儀正しく、他人を思いやる心を持った人  
将来、技術者や科学者を目指す人  
自らの夢に向かって自主的に行動できる人

### 商船学科

海や船に興味がある人  
学ぶことが好きで自ら考えて行動できる人  
将来、海事技術者として世界で活躍したい人

### 情報機械システム工学科

他人を思いやる心を持ち、自主的に行動できる人  
基礎学力を有し、ものづくりに興味がある人  
コミュニケーション能力を有し、国際社会で活躍したい人

### 専攻科

専門分野に関する開発能力の向上を目指す人  
複合的視点で社会的問題を捉えることのできる人  
国際的な感覚を持ち自律した技術者を目指す人





## ディプロマ・ポリシー（卒業・修了認定の方針）

### 商船学科

物流の国際化と船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者として活躍できる専門知識と技術を習得した人材および海事関連産業で活躍できる人材を育成する。

### 情報機械システム工学科

情報機械システム工学科は、情報工学、電気電子工学、機械工学を基盤とし、学生自身の個性に応じたカリキュラムを選択することで、地域に貢献し日本の産業を支える実践的技術者としての専門知識・技術を身に付けることを目標とする。

### 専攻科

本校の専攻科は以下に示す到達目標を掲げ、さらに各専攻においても特色ある教育目標を掲げている。定められた能力を身に付けた学生に修了を認定する。

- (A) 専門分野におけるより高度な開発・創造能力を持った技術者となること
- (B) 複合的視点から物事を考え解決する能力を持った技術者となること
- (C) 国際的な感覚を持ち自律した技術者となること

## カリキュラム・ポリシー抜粋（教育課程編成・実施の方針）

### 商船学科

5年半の学修フェーズを「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の2つに大別する。各フェーズは学内における学習や実習による「席上課程」と大型練習船における乗船実習における乗船実習による「実習課程」を含む。学生は基礎フェーズで自分の適性を見極めた後に「航海コース」または「機関コース」を選択する。応用フェーズでは各コースの専門的な学修と長期の大型練習船における乗船実習を行い実践的かつ幅広い学習を進める。

### 情報機械システム工学科

5年間の学修フェーズを「スタートアップ」「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の3つに大別し、「スタートアップ」では情報機械システム工学科で学修する概要を理解するとともに論理的思考能力を育成し、「基礎フェーズ」において、体験型の実習を通じて共通基盤となる技術要素に触れる。4・5年生の「応用フェーズ」においては、自らが専門とする学修分野として「専門性ユニット」から1分野を必須選択とし、自らの将来就く職種に沿った「志向性ユニット」を選択することで、個々の個性に応じたオーダーメイドカリキュラムを提供する。一方で、1年生から5年生までの混合型の地域連携 PBL を配置し、それぞれの立場において到達すべき技量、立ち振る舞いについて体験を重ね、成長を促すこととした。

### 専攻科

商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の専門分野における、より高度な開発・創造能力の修得のための科目、複合的視点から物事を考え解決する能力を持つための科目、国際的な感覚を持ち自律した技

術者となるための科目を配置して教育を行う。

## アセスメントポリシー

評価の段階	入学時 (アドミッション・ポリシー)	在学中 (カリキュラム・ポリシー)	卒業時 (ディプロマ・ポリシー)
学校全体	入試倍率 入学時アンケート	留年・中途退学者数 卒業生・修了生アンケート	就職率・進学率 卒業生・修了生アンケート 就職先・進学先の一覧 専攻科の学位取得状況
学科・専攻	学科・専攻の各入試倍率	進級者数 単位取得状況 外部テスト (TOEIC,CBT 等) 専攻科の外部発表	卒業・修了要件達成状況 専攻科の特別研究予稿集
科目		授業アンケート シラバス	

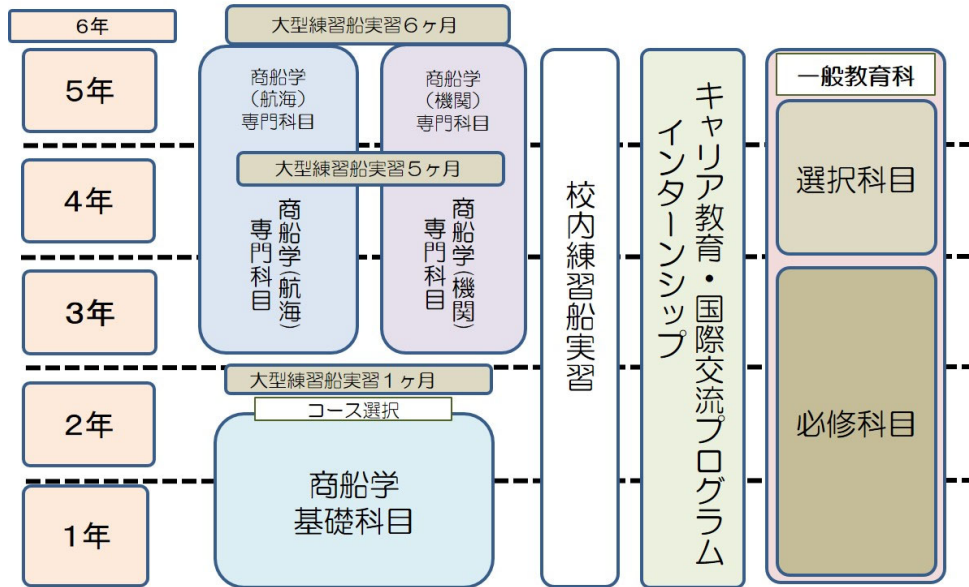
### □学科

商船学科（定員 40 名）

3 級海技士の資格を取得して外国航路や内航の航海士、機関士をめざす学科です。



## 商船学科 カリキュラム構成



## 情報機械システム工学科 (定員 80 名)

情報、電気、機械の各分野の基礎知識を有しつつ、各自の専門性を持つ技術者をめざす学科です。



### 地域と連携した課題解決による技術者育成

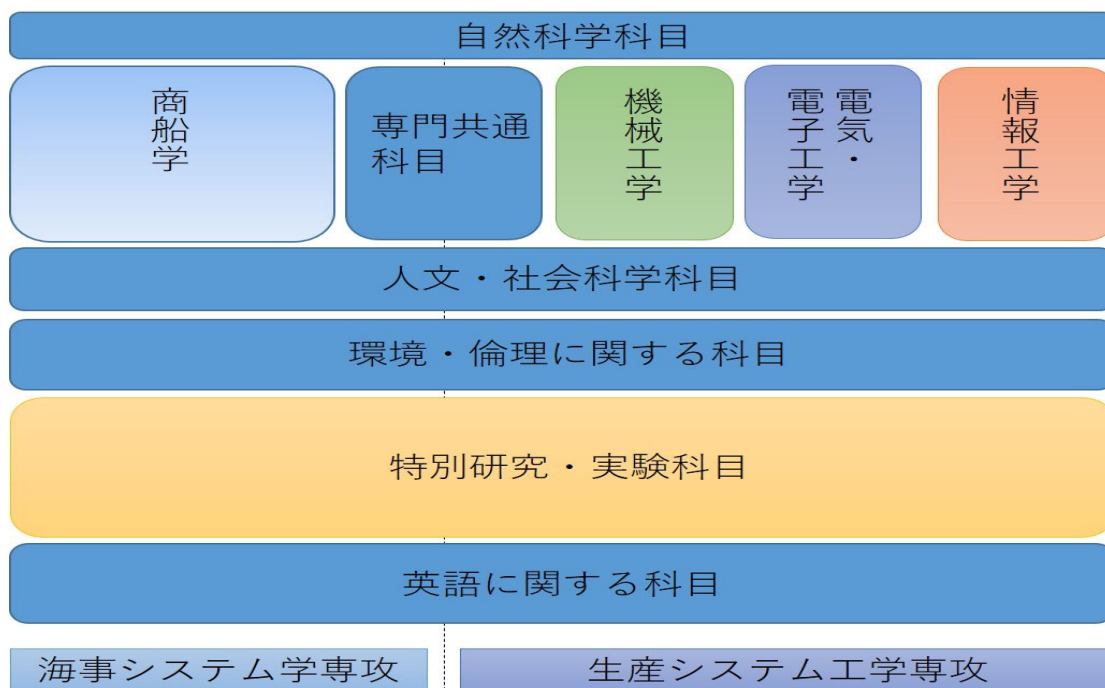
地域連携PBL(Project Based Learning)として、漁業・農業・観光業を対象として工学による課題解決を通じて技術者としての素養を高めるとともに地域産業を理解し活性化を目指します。

**専攻科**（海事システム学専攻：定員 4 名、生産システム工学専攻：定員 8 名）

商船学科や情報機械システム工学科を卒業した後、高度な専門性を持つ技術者をめざす学科です。



### 専攻科 カリキュラム構成



#### □教職員（2023.3.1 現在）

教育職員					事務職員等			合計
校長	教授	准教授	講師	助教	部課長	係長等	一般職員等	
1	25	24 うち2は 海事職	0	3 うち1は 海事職	2	11	30	96
53 うち3は海事職					43			

---

## 2. データでみる学生の受け入れ

本校の入試制度（H31 から変更）

### 1. 推薦選抜

#### ① 特別推薦

出願資格：2・3年生の評定の総計が72以上、かつ2・3年生の全科目3以上

出願書類：志望理由書、校長推薦書

選抜方法：書類選考、面接

#### ② 一般推薦

出願資格：2・3年生の評定の総計が62以上、かつ2・3年生の全科目3以上

出願書類：志望理由書、校長推薦書

選抜方法：書類選考、作文、面接

### 2. 体験学習選抜（商船学科のみ）

出願資格：2・3年生の全科目3以上

出願書類：志望理由書

選抜方法：書類選考、体験学習、作文、面接

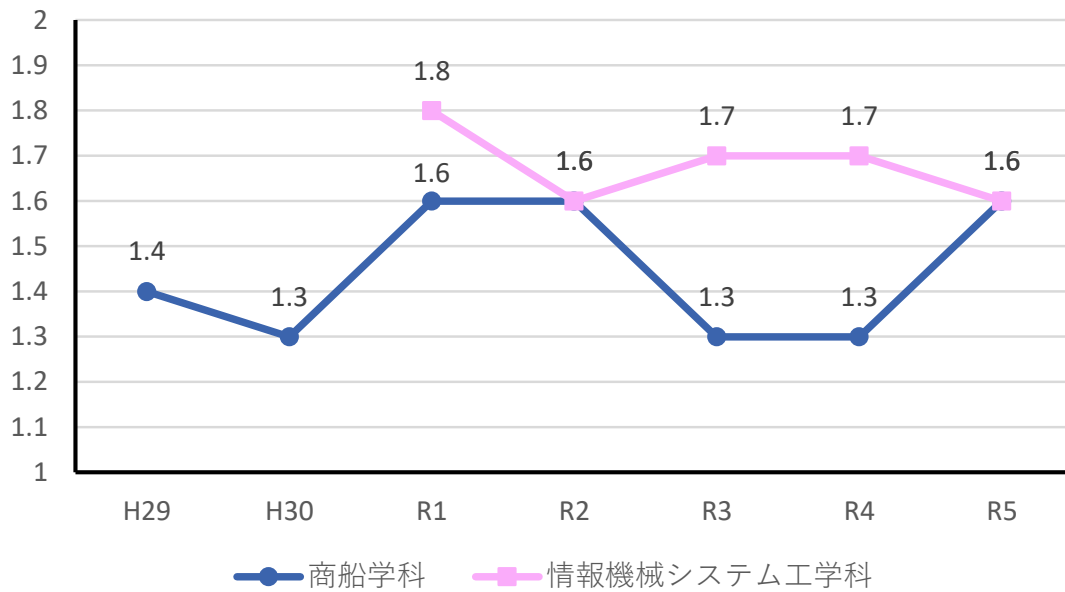
### 3. 学力検査選抜

出願資格：評定による制限なし

選抜方法：5科目（数学、英語、理科、社会、国語）の試験

※推薦と体験で定員の85%まで充足可能

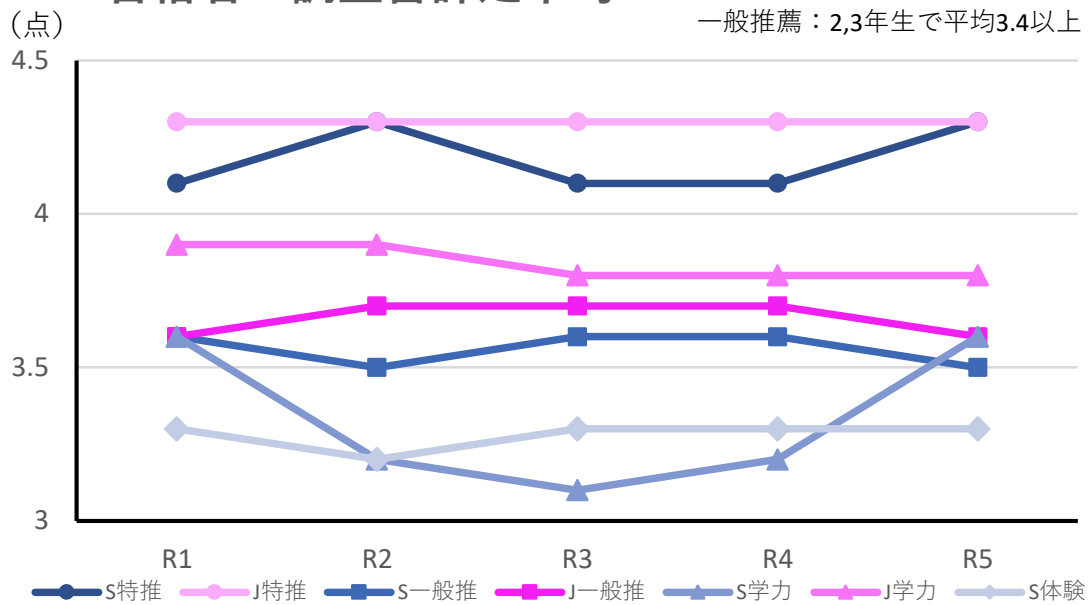
## 志願者倍率



## 合格者の調査書評定平均

特別推薦：2,3年生で平均4.0以上

一般推薦：2,3年生で平均3.4以上



S 特推：商船学科推薦選抜（特別推薦）

J 特推：情報機械システム工学科推薦選抜（特別推薦）

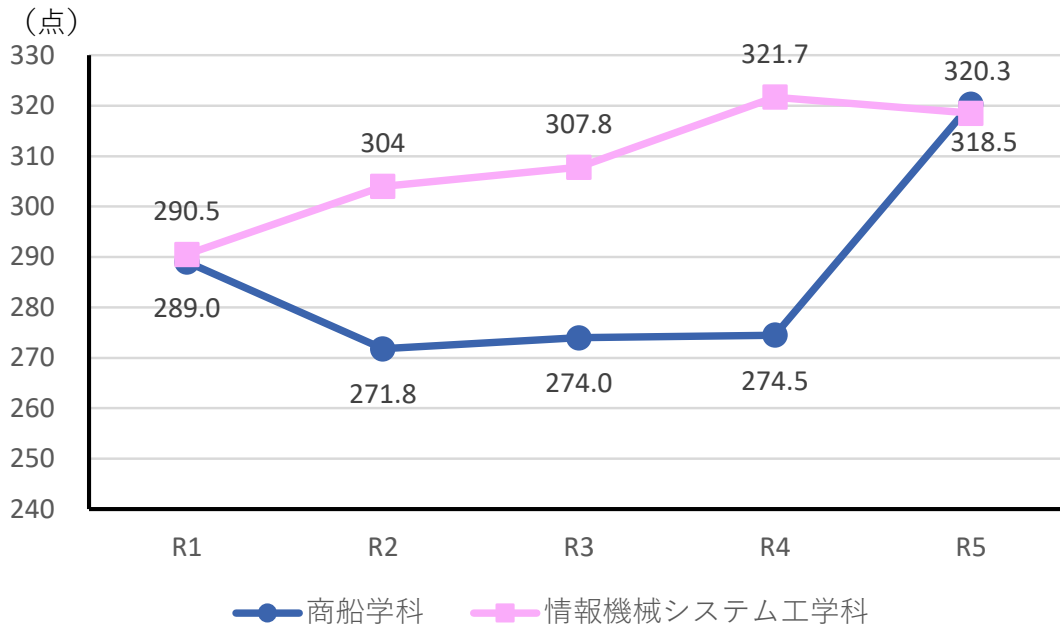
S 一般推：商船学科推薦選抜（一般推薦）

J 一般推：情報機械システム工学科推薦選抜（一般選抜）

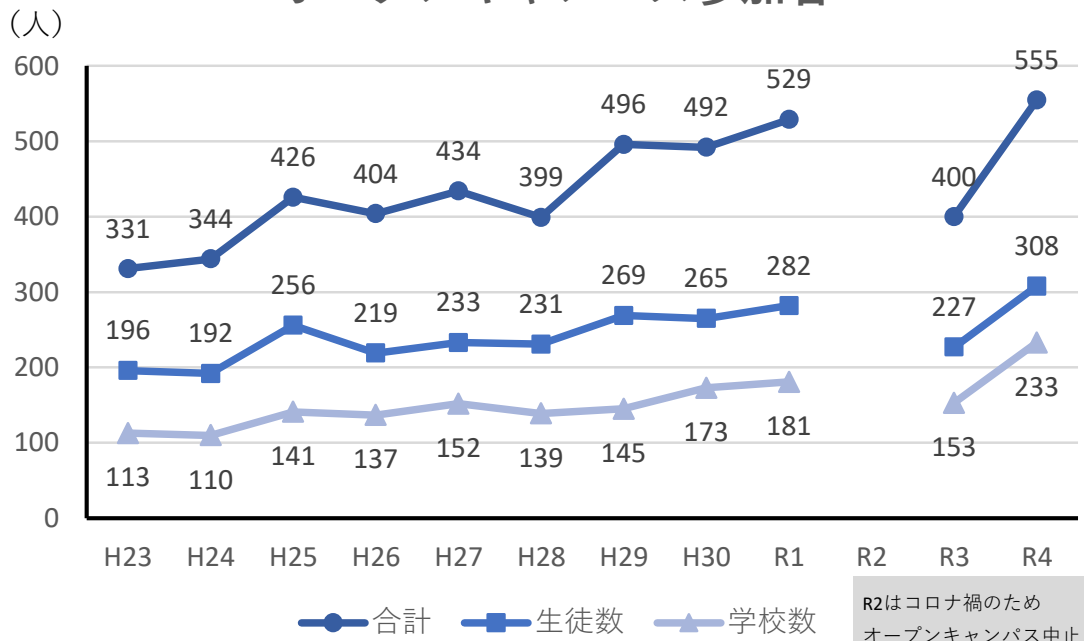
S 学力：商船学科学力検査選抜、J 学力：情報機械システム工科学力検査選抜

S 体験：商船学科体験学習選抜

## 合格者の学力検査成績（平均）

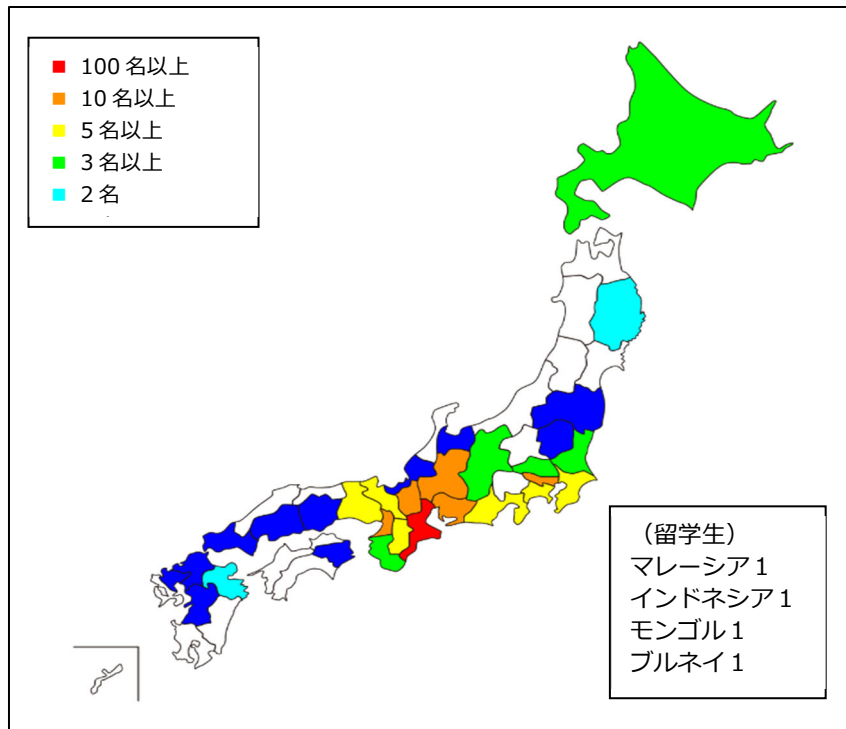


## オープンキャンパス参加者

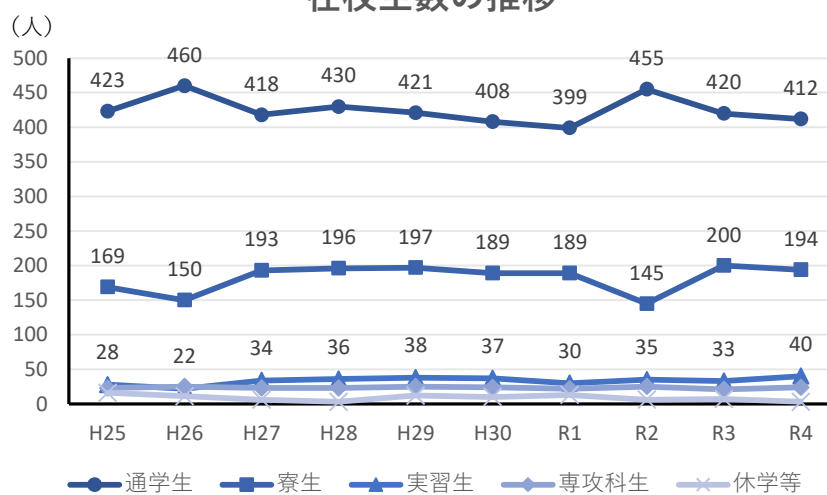


### 3. データでみる教育の質保証

#### 都道府県別在校生分布（R4年度）

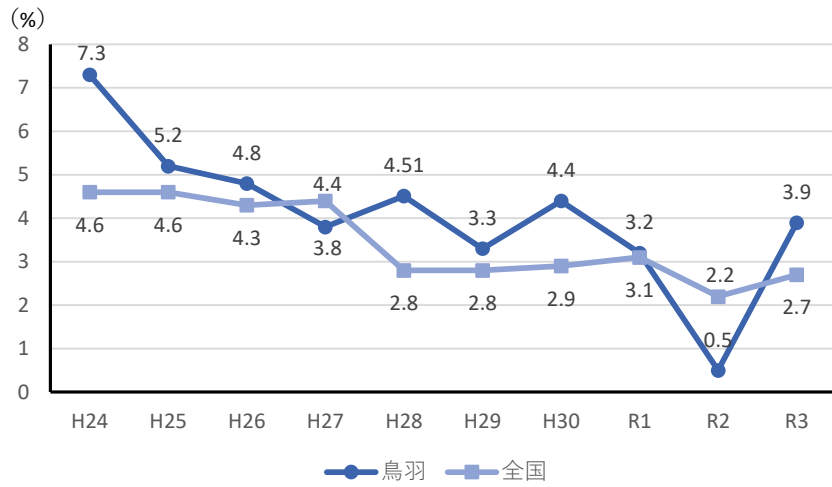


#### 在校生数の推移

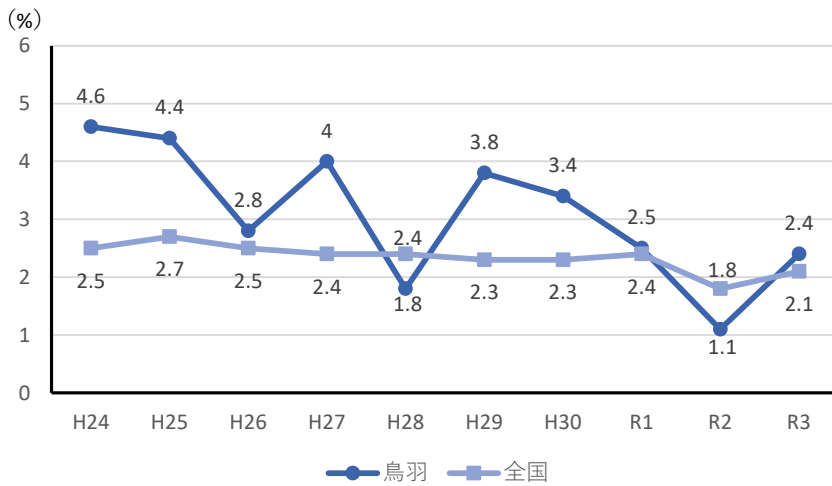




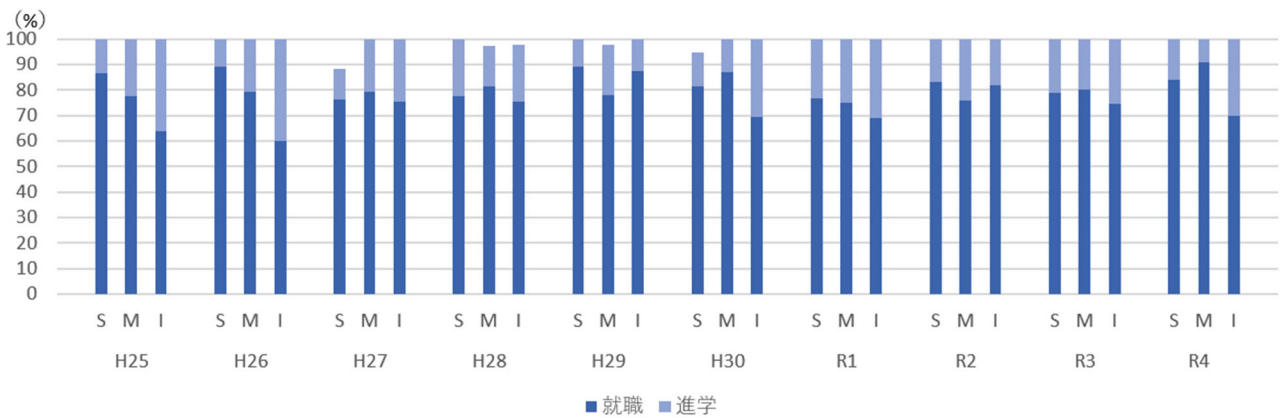
### 原級留置率



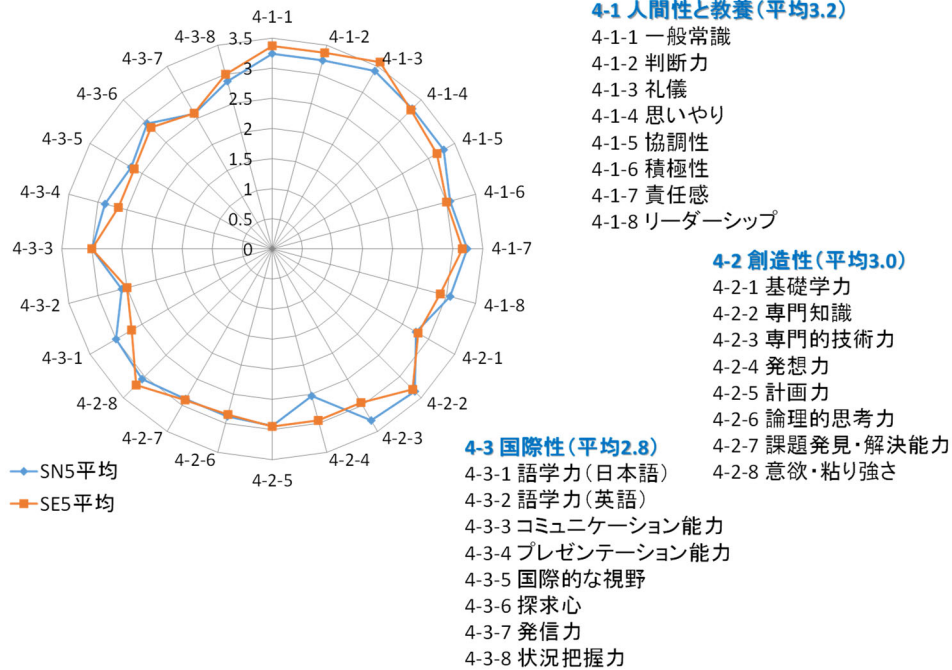
### 退学率



### 就職・進学率

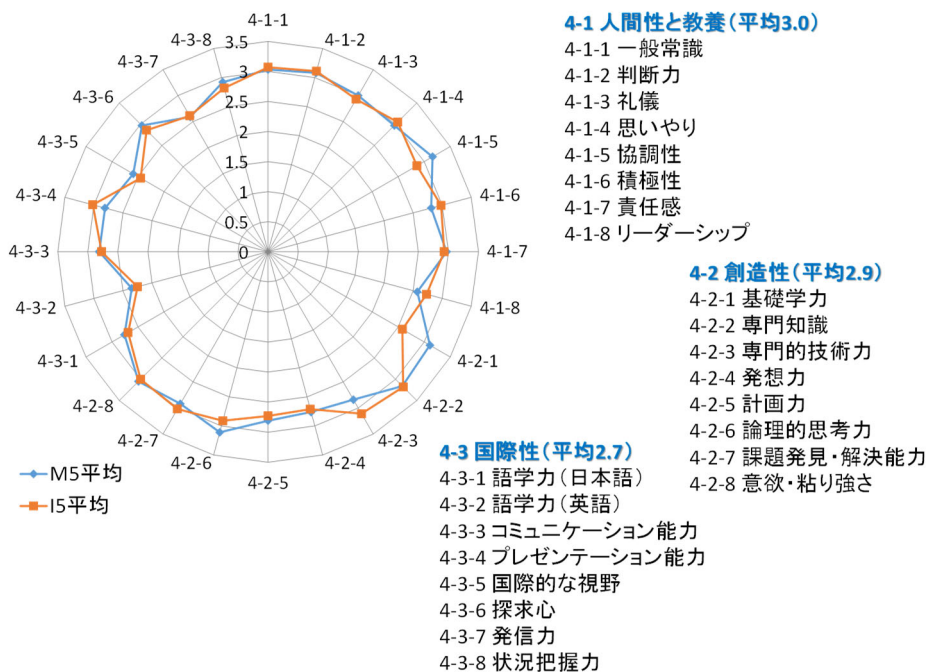


## 商船学科卒業生(令和4年9月卒業)の教育目標達成度



SN5 : 商船学科航海コース5学年、SE5 : 商船学科機関コース5学年

## 工業系学科卒業生(令和4年3月卒業)の教育目標達成度



M5 : 電子機械工学科5学年、I5 : 制御情報工学科5学年

---

## 卒業生進路等

### 商船学科、海事システム学専攻

日本郵船（株）、川崎汽船、共栄マリン（株）、NS ユナイテッド海運（株）、シュクユタンカー（株）、中央海運（株）、オフショア・エンジニアリング（株）、ENEOS オーシャン（株）、鹿児島船舶（株）、東京汽船（株）、井本商運（株）、ECL エージェンシー（株）、上野トランステック（株）、イイノガストラנסポート（株）、NS ユナイテッド海運（株）、前川製作所、NX 海運（株）、日本クルーズ客船（株）、コスモ海運（株）他、

国立大学法人東京海洋大学、国立大学法人神戸大学、鳥羽商船高専専攻科 他

### 電子機械工学科

関西電力（株）、中部電力（株）、東京電力ホールディングス（株）、三菱電機プラントエンジニアリング（株）、三菱電機エンジニアリング（株）、三菱電機ビルソリューション、東海旅客鉄道（株）、ダイキンエアテクノ（株）、東京ガスネットワーク（株）、日本オーチスエレベータ（株）、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング（株）、村田機械（株）、美和ロック（株）、NEC ネットエスアイ（株）、浜松ホトニクス（株）、（株）半導体エネルギー研究所、旭ダイヤモンド工業（株）、キャノンマーケティングジャパン（株）他

国立大学法人長岡科学技術大学、国立大学法人豊橋科学技術大学、鳥羽商船高専専攻科 他

### 制御情報工学科

出光興産（株）、富士電機（株）、日本原子力発電（株）、日東電工（株）、（株）NTT ファシリティーズ、（株）エヌ・ティエムイー、シンフォニアテクノロジー（株）、（株）前川製作所、村田機械（株）、メタウォーター（株）、ソフトバンク（株）、KDDI エンジニアリング（株）、（株）トヨタシステムズ、中部電力パワーグリッド（株）、NEC ネットエスアイ（株）、（株）UL Japan、パナソニックインダストリー（株）、キクカワエンタープライズ（株）、（株）アルプス技研他

モンゴル国立科学技術大学、国立大学法人長岡科学技術大学、国立大学法人豊橋科学技術大学、鳥羽商船高専専攻科 他

### 生産システム工学専攻

サントリー（株）、パナソニック（株）他

（令和4年度卒業・修了実績にもとづ

く）

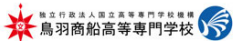
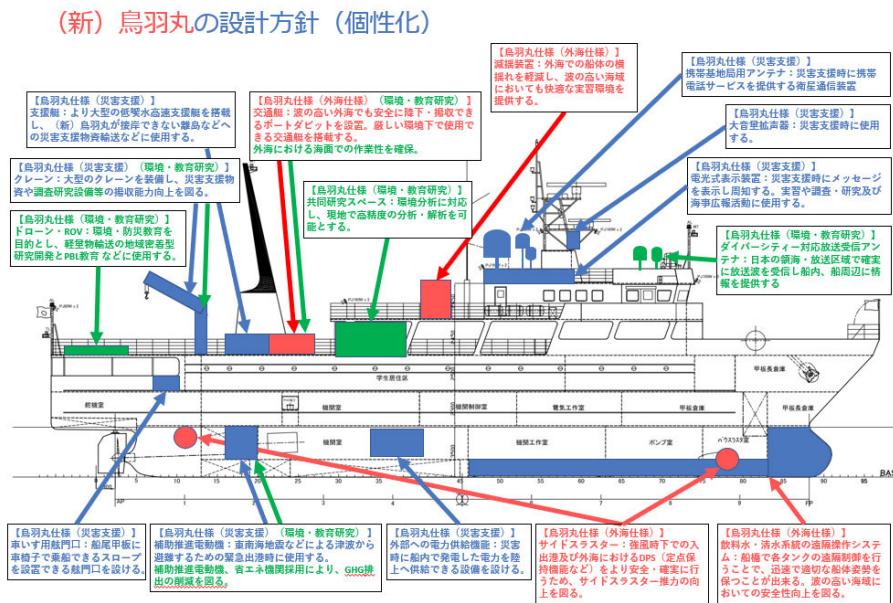
## 4. 教育等環境整備と学生への支援

### □教育等環境整備

#### ・練習船「鳥羽丸」の代船建造（令和4年度第二次補正予算措置）

→災害支援機能を有する練習船の建造

船舶法令対応、女性乗組員や感染症、災害支援に配慮した安全・安心な教育訓練環境の実現



独立行政法人独立高等専門学校機構  
鳥羽商船高等専門学校

代船建造検討委員会鳥羽丸WG作成（要求時）

#### ・基幹・環境整備（棧橋）（令和5年度概算要求）

→新鳥羽丸の配備に対応した災害支援機能を有する新浮棧橋およびライフラインの整備

#### ・学内共用スペースの確保（固定化の解除）

→GX, DX, スタートアップ、イノベーションの時代に対応した学内施設環境整備

#### ・リジリエントな教育研究等学校活動環境の整備

□災害支援機能を有する練習船の配備（R4補正、R5補正）

（携帯基地局の船上設置、拡声器、電光表示、車いす、支援艇の配備）

□災害支援機能を有する浮棧橋の整備（R5当初、R6当初）

（4m通路確立による、災害プッシュ輸送4トンロング車輛の進入可）

□国際寮・浴室・ボイラー整備（R6概算要求）と宿泊地区のエリア防災機能の強化

## □学生への支援

- ・第4次産業革命を促進するプログラマ育成と地域活性モデル（平成29年“KOSEN4.0”イニシアティブ採択事業）
- ・国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する協議会（平成30年度～次世代の海洋人材の育成事業）（継続中）

### 第6回 高専・海事教育フォーラム

令和4年度 次世代の海洋人材の育成に関する事業  
「海事・海洋分野の人材育成」  
「海事・海洋広報活動」

日時：令和5年2月10日（金）13:30～17:00  
会場：神戸国際会議場メインホール  
※Microsoft Teams からも参加できます。

【参加申込方法】  
右下のQRコードまたは申込URLより、参加申込フォームへアクセスし、必要事項を記入の上お申込みください。（なお、本方法による申込が難しい場合は【問合せ先】にご連絡願います。）

【申込URL】  
https://forms.gle/kwJForum2023

【参加申込期間】 令和5年1月13日（金）

※1. 申込みの際に入力された個人情報、本フォーラム以外の目的では使用しません。  
※2. Microsoft Teams から参加する方には別途、参加費をご連絡いたします。  
※3. 会場に参加される方には、別途、会場へのアクセス等詳細についてご案内します。

【問合せ先】 〒933-0293 富山県射水市海老江町会1の2  
富山高専専門学校 総務課 倉手達博・地域連携担当  
TEL: 0766-96-5109 E-mail: kikaku@nmc-toyomo.ac.jp





主催：富山高専、鳥羽商船高専、広島商船高専、大島商船高専、戸新商船高専  
共催：日本船主協会、全日本船舶職員協会、全日本海員協会、国際船員労務協会、  
海技教育機構、東京海洋大学海洋工学部、神戸大学海洋政策科学部、日本海洋少年団連盟

- ・「とる」から「つくる」へ農林水産業のDX推進プロジェクト（令和4年度文部科学省科学技術人材育成事業-高専発！「Society 5.0 型未来技術人財」育成事業）「GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化（採択分野：農林水産）」に全国高専の中核拠点校として採択

### （農水）「とる」から「つくる」へ農林水産業のDX推進プロジェクト

**地域を糾合するK-Driveチームとしての強み**

<b>函館高専</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未利用資源活用</li> <li>・機能性物質利用</li> <li>・酒造技術（製品化策）</li> </ul>	<b>鳥羽商船高専</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI柑橘栽培</li> <li>・IoT獣害監視（製品化策）</li> <li>・マダイ/ブリAI結餌</li> <li>・海象観測機（製品化策）</li> <li>・密漁・水空中ドローン</li> <li>・練習船鳥羽丸活用</li> </ul>	<b>和歌山高専</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオセメント</li> <li>・海洋環境測定/分析</li> <li>・アグリロガー</li> </ul>	<b>阿南高専</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI漁場予測</li> <li>・育苗環境最適化</li> <li>・害虫忌避</li> </ul>
--	---	---	---

× KOLEN COMPASS5.0 4分野

→ 社会実装 起業家育成

- ・拠点校、協力校ともに農水分野での研究を推進しており、**社会実装経験も豊富**
- ・DX推進に不可欠なAI/IoT技術はもちろん、**環境分析に強い学科の連携**チームとして構成
- ・**全国で実用普及段階にあるIoT海洋観測機「うみログ」やIoT獣害監視「まるみえホウケン」を製品化**
- ・**COMPASS 4分野と掛け合わせることで社会実装を通じた人材育成、研究推進を実践**
- ・地域に根付いた**新産業を創出、雇用を生み出し、アントレプレナーの育成**にも取り組む

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」採択（一関、鳥羽）

**実証に参加可能な本科生・専攻科生数**


- ・拠点校の鳥羽商船高専では1年時より地域連携PBLを正規科目として配置
- ・本科 各学年80名以上、5学年で400名以上の参加（うち60名が農水担当）
- ・専攻科 各学年3名、合計6名が農水に関する研究実施、DX-PBLを全校的に推進
- ・協力高専各高専10名以上の参加、4高専で40名以上
- ・上記は令和4年度の人数、令和5年度は2倍以上が参加を目標

**協力企業・自治体・大学等**

- ・包括連携：KDDI、KDDI総研、ソフトバンク、中電CTIなど
- ・実証企業：北食、上川大雪酒造、かわむら、光洋機械産業など
- ・自治体：三重県、鳥羽市、函館市、一関市、御坊市、阿南市など
- ・団体：農協、漁連、商工会議所、観光協会など
- ・大 学：東京海洋大学、三重大学、はこだて未来大学など

**成果目標（KPI）**

- ・令和4年度 社会実装事例 7件  
参加学生数100名、外部資金獲得 2000万円
- ・令和5年度 社会実装事例 15件  
参加学生数200名、外部資金獲得 3000万円



- ・海洋・海事産業を対象とした全校でのPBL実践によるDX推進人材の育成（令和4年度文部科学省デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業）



- ・文部科学省令和4年度二次補正-高等専門学校スタートアップ教育環境整備（応募中）

- ・国際寮（多文化交流生活寮および浴室・ボイラー施設整備）（要求準備中）

この事業では、鳥羽商船高等専門学校において国際寮を新設する。「多文化交流生活寮（Multi-Cultural Exchange Dormitory、略称 MELD）」というコンセプトを掲げ、国際寮の意味合いをさらに掘り下げ、留学生に生活の場を提供するにあたって、生活様式や宗教的慣習など多様な文化的要素に応えるための施設を備え、国境を越えて活躍する人材育成のコモンズとなる生活寮を設置する。女子寮との併設を計画しており、女子留学生の受け入れに向けてより積極的に取り組む。MELDの特色としては、多文化生活寮として留学生のみならず、受け入れるチュータ等の日本人学生との混住寮として交流を深化し、協学する機能を持った施設になることが挙げられる。高専生の特色である、個々の寮生の成長背景となる年齢や出身の多様性、文化的側面に応え協調性も図ることで、多角的な視野を育みながら、ポストコロナや世代を超えた幅広い生活様式を持った学生の受け入れ、自立心を養い、生涯の友を得られる修養の場の実現が可能になる。

・各種奨学金受給状況（人数）

	R2 前期	R2 後期	R3 前期	R3 後期	R4 前期	R4 後期
JASSO 給付奨学金	42	43	48	49	45	42
JASSO 第一種奨学金	21	19	18	17	19	17
JASSO 第二種奨学金	3	6	8	7	5	4
海技教育財団奨学金	20	14	15	14	16	13
外航日本人船員奨学金	23	18	19	16	22	16

・鳥羽商船高専創基 150 周年・高専創立 60 周年記念事業基金（学生支援計画等）

本校は、令和 7 年(2025 年)に本校の母体となる航海測量習練所の創基から起算し、150 周年の記念すべき年となります。同年には、練習船鳥羽丸の新造船の竣工も計画されております。又、令和 9 年(2027 年)には高専設置 60 周年を迎えます。これらの年を記念するため式典を挙げ、本校の栄光ある足跡を回顧し、卒業生・修了生、及び、関係各方面の各位と喜びを分かち合いますとともに、母校の輝かしい将来の展望とその実現を期するため、独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校創基 150 周年・高専創立 60 周年記念事業基金を設立致してこの事業を一層有意義なものに致します。

このため、「独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校創基 150 周年・高専創立 60 周年記念事業委員会」を組織し、記念行事、及び、記念事業を計画し推進することと致しました。

1. 募金の目的 創基 150 周年記念基金の創設

- (1) 記念行事等実施経費 (2) 学生の修学支援 (3) 教育研究支援 (4) 地域貢献支援  
(5) その他事業

---

## ・キャリア教育支援

本校は、就職活動が外的要因に左右されないように、入学時から一貫したキャリア教育プログラムを配置することで対応している。本校のキャリア教育は、学年毎の授業カリキュラムと学年横断型の支援事業から構成されている。本校では、就職活動は4年次のインターシップから始まると捉えており、3年次からインターシップ先を選ぶためのプログラムを設定している。以下のSTEP3(2)校内就職支援セミナーは、原則3年生以上を対象としているが低学年からの参加も可能としている。同セミナーのパンフレットは電子化されており、全学年で閲覧可能となっている。求人情報についても、Webで全学年が検索できるように対応している。また、リモート面接、リモートインターシップ対策としてZoomを用いたプログラムも実践している。

### STEP1 社会人基礎力養成（1、2年生、授業カリキュラム）

- (1)一般基礎教育1（1年生、メンタルヘルス、スマホ、コミュニケーションスキル、他）
- (2)一般基礎教育2（2年生、社会人基礎力、コミュニケーションスキル、他）

### STEP2 就職力養成（3～5年生、授業カリキュラム）

- (1)キャリアデザイン1（3年生、自己分析を中心としたプログラム）
- (2)キャリアデザイン2（4年生、企業分析を中心としたプログラム）
- (3)インターンシップ（4年生、単位化）
- (4)キャリアデザイン3（5年生、就活支援を中心としたプログラム）

### STEP3 実践力養成（3、4年生、専攻科1年生、学年横断型支援事業）

- (1)人材広告企業連携WEB講座（11月、適性検査、就活動向講座、面接講座）
- (2)校内就職支援セミナー（12月、100社を越える採用実績のある企業が参加）
- (3)人材広告企業就職セミナー（マイナビ、学研、メディア総研）

## ・いじめ防止のためのコミュニケーション・スキルアップ支援とリテラシー教育

本校は、いじめ防止の啓発活動を、コミュニケーション・スキルアップ支援と情報リテラシー教育の両面から対応している。

いじめ防止教育は、学生のSNSを含むコミュニケーションの円滑化に関する学びが、SDGsのゴールである「ジェンダー平等を実現しよう」「パートナーシップで目標を達成しよう」について考え、「他人の個性を認め尊重する」ことの実践に繋がることを目指してい



る。本校ではいじめ防止週間を、6月、10月、12月に設け、学生主事、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが、いじめ防止の視点で SNS を含むコミュニケーションについて講話、およびアンケート調査を行っている。特に、1年生については、入学前説明会や、新入生オリエンテーションのグループワークを通じ、SNS を含むコミュニケーションにおけるトラブルの防止、対応方法を学ぶ機会を設けている。1、2年生を対象とした社会人基礎力養成のための授業科目（一般基礎教育 1、2）においても、SNS の利用方法に関する啓発教育を行っている。また、学校学年横断型教育として、鈴鹿高専と連携してリモート環境で、ピアサポーター養成トレーニングを開催し、スクールカウンセラーの指導によるグループワークを通じ、SNS を含むコミュニケーショントラブルの予防学習を行っている。

情報リテラシー教育は、入学時の情報メディア教育センターによる情報倫理ガイドラインの説明を実施している。さらに、令和3年度に引き続き本年度においても本科1年生を対象に三重県警察本部サイバー犯罪対策課の方に講演を依頼し、インターネット上への顔写真のアップロードや LINE でのやり取りで実際に起きたトラブルを取り上げ、学生たちへ個人情報の取扱いや一度インターネット上に情報を上げてしまうと簡単に消すことはできないといった SNS での肖像権侵害等の内容について講演を行った。

#### 校内点景



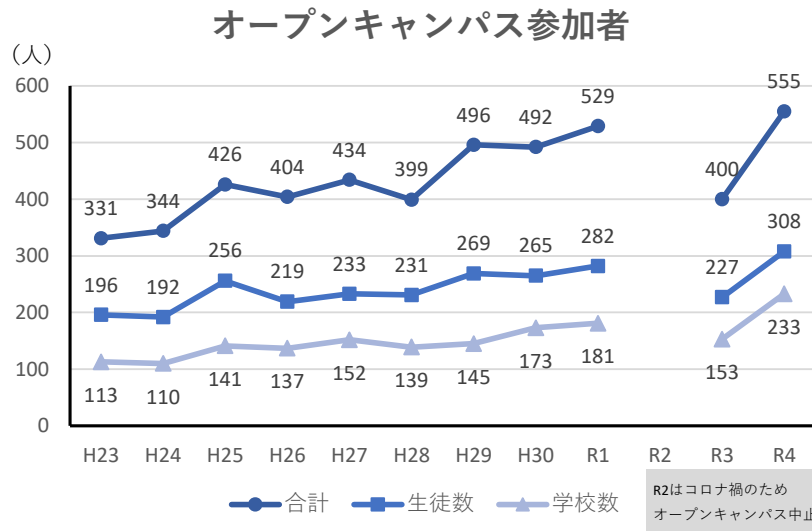
創立 100 周年記念碑「百年を守護の青峯山青し」（山口誓子）



近藤真琴翁記念碑（勝 海舟書）

## 5. 広報、産学連携・他機関や地域との連携

### ・入試広報-オープンキャンパス



PR イベント	実数
春季学生募集巡回 PR (6~7月)	県内中学校 149 校
秋季学生募集巡回 PR (10~11月)	県内中学校 145 校 県外中学校 132 校
Web 学校説明会 (7月・10月)	30 組
Web 入試相談会 (7月~11月)	11 組
学科個別の相談会 (10月~11月)	商船学科 練習船体験乗船 24 組
中学校主催「進路説明会」(6~11月)	19 校
高専機構主催「国公立私立合同説明会」 (6月 東京、7月 大阪)	
公開講座「サイテクランド in 鳥羽商船高専」 (7~8月)	小中学生 130 名
商船系高専 5 校合同進学ガイダンス (オンライン) (8月)	
学習塾対象学校説明会(10月)	19 名
NPO 法人故郷の海を愛する会主催事業の協賛(10月・12月)	10月: 33名 12月: 33名
受験相談会(12月)	19 名
三重県 3 高専合同説明会 (7月・10月)	
高専機構主催「KOSEN FAIR 2022」(オンライン) (10月・11月)	

## ・産学連携・他機関や地域との連携

本校では、「三重県の伊勢志摩地域の特徴的な産業（第1次産業・第3次産業）を支援し、業務の効率化、魅力あるコンテンツの制作に寄与する地域貢献活動を推進する」事を目標に掲げている。そのため、地元の人では気付きにくい地域の特色を県外のみならず国外の学生視点からより魅力的なものにするために情報メディア教育センター1階に設置するラーニングコモンスペースを活用することで実施していく。

### □海のシリコンバレー「伊勢志摩海洋教育研究アライアンス」協定

三重県と包括連携協定を締結しました伊勢志摩海洋教育研究アライアンス協定締結式および海のシリコンバレーシンポジウムに出席しました。 令和4年10月1日



海のシリコンバレーは、鳥羽を中心とした伊勢志摩地域に海に関わる地方公共団体、高等教育機関、公的研究機関、地元企業が立地し、全国で希なインフラ環境のことがあることを受け、鳥羽市長が提唱しているものです。

### □鳥羽商船高等専門学校と三重県との包括的連携に関する協定

三重県と包括連携協定を締結しました。 令和4年8月31日



令和4年8月31日（水）に三重県庁において、三重県産業の振興や地域の活性化に貢献する人材を育成するとともに、地域課題に迅速かつ適切に対応し、活力のある個性豊かな地域社会の形成、発展に寄与することを目的に、三重県と包括連携協定を締結いたしました。

三重県とは従前から、農林水産業の振興に関することなどで連携した取り組みを実施していましたが、協定締結を機に防災・減災、スマート技術、DXの推進など一層連携を強化して取組を進めていきます。

- （連携・協力事項）
- (1) 学生の県内への就職に関すること
  - (2) 農林水産業の振興に関すること
  - (3) 災害時の対応に関すること
  - (4) 教育の充実に関すること
  - (5) 観光の振興に関すること
  - (6) その他、地域の活性化及び地域課題の解決に資すること

### □鳥羽商船高等専門学校と中電シーティーアイとの包括連携に関する協定

### □三重県における海洋DX研究開発・導入の促進に係る産学官連携協定

### □鳥羽商船高等専門学校と鳥羽市との包括連携に関する協定

### □伊勢市産業支援センター、鈴鹿高専との産学官連携に関する協定

AI や IoT などの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成、STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics) 教育が求められています。本校は皇學館大學と包括連携するとともに、教員と学生を地元の小中学校に派遣して出前授業などを行っています。また、三重県とも包括連携協定を締結しています。これからも、人と社会の Well-being の向上に資する、「地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の育成」に注力していきます。

そのような人材育成や教育研究の推進に資するべく鳥羽商船高専連携協力が会が設立されており、産学官金連携の大きな推進力となっています。

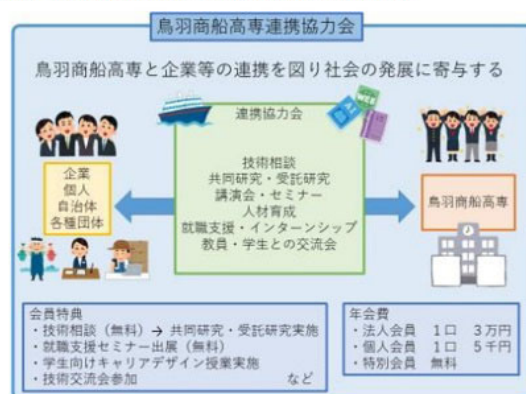
#### 令和4年度 鳥羽商船高専連携協力が会 役員等名簿

	独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校
会長	菊川 厚 (キクカワエンタープライズ株式会社 代表取締役社長)
副会長	西村 謙治 (協同海運株式会社 代表取締役)
理事	菅沼 延之 (名古屋メッキ工業株式会社 代表取締役、鳥羽商船同窓会 会長)
理事	福武 章夫 (伊勢湾フェリー株式会社 取締役社長)
理事	川邊 浩史 (美和ロック株式会社 代表取締役社長)
理事	平野 新一 (シンフォニアテクノロジー株式会社 代表取締役社長)
理事	江崎 隆夫 (株式会社鳥羽ヤンマー 代表取締役)
理事	和泉 充 (鳥羽商船高等専門学校 校長)
理事	江崎 修央 (鳥羽商船高等専門学校 教授 校長補佐・研究主事)
監事	神山 大輔 (株式会社マサグループ本社 執行役員)
監事	三浦 宜昭 (伊勢湾フェリー株式会社 業務部専任部長)
顧問	松田 音壽 (鳥羽商工会議所 会頭)
顧問	永富 洋一 (鳥羽機部准業協同組合 代表理事組合長)
顧問	鈴木 英敬 (衆議院議員)
顧問	中村 欣一郎 (鳥羽市長)
顧問	伊藤 友仁 (鳥羽商船高等専門学校 教授 副校長・教務主事)
顧問	坂牧 孝規 (鳥羽商船高等専門学校 教授 副校長・学生主事)
顧問	橋爪 仙彦 (鳥羽商船高等専門学校 教授 副校長・寮務主事)
顧問	白石 和章 (鳥羽商船高等専門学校 教授 校長補佐・情報教育メディアセンター長)
事務局長 (兼務)	江崎 修央 (鳥羽商船高等専門学校 教授 校長補佐・研究主事)
事務局次長	水野 英昭 (鳥羽商船高等専門学校 総務課課長補佐)
幹事長	吉岡 幸次郎 (鳥羽商船高等専門学校 准教授 研究主事補)
幹事	窪田 祥朗 (鳥羽商船高等専門学校 教授 研究主事補)
幹事	深見 佳代 (鳥羽商船高等専門学校 准教授 研究主事補)
幹事	清重 康司 (鳥羽商船高等専門学校 技術長)

#### 鳥羽商船高専連携協力が会事業概要

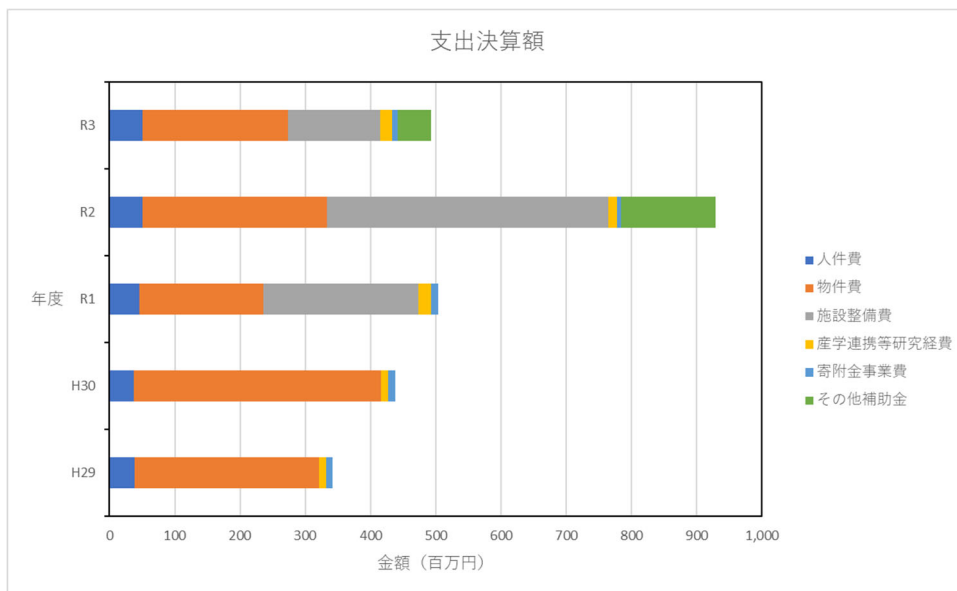
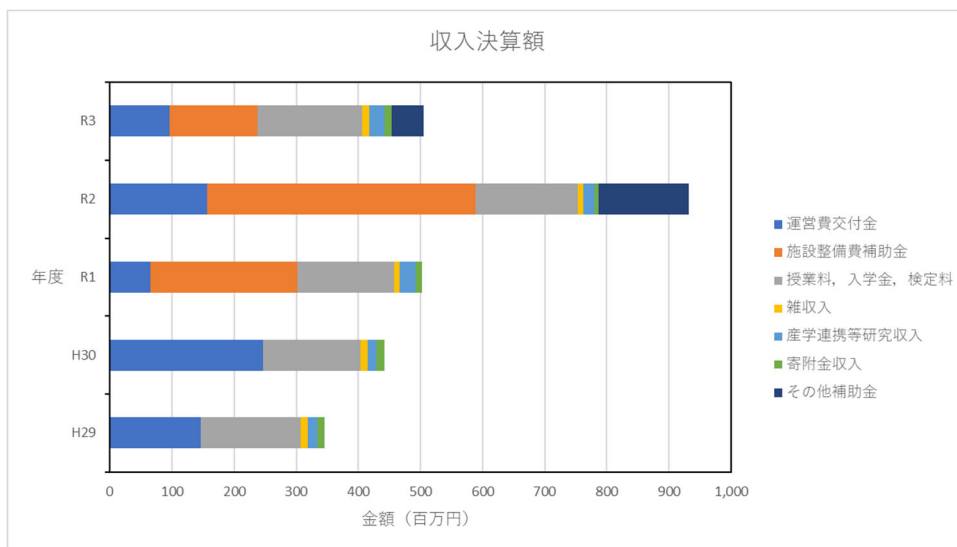
##### 年間スケジュール (予定)

- 4月 役員会  
・会計報告、実施報告、実施計画 起案
- 5月 総会、研究事例報告  
・理事会での立案事項の承認、学校及び会員企業等からの話題提供
- 9月から11月 連携協力が会サロン (研究会)  
・発表会後に軽食・名刺交換会
- 12月 就職支援セミナー (9月案内開始)  
・学校での企業紹介イベント
- 3月 鳥羽商船高専フォーラム  
・連携協力が会での実施事例、学校取り組み内容、学生取り組み内容などの報告
- 随時 技術相談、共同研究・受託研究実施、学生向け授業等



伊勢市産業支援センター、鈴鹿高専との産学官連携に関する協定（H21年1月22日）
鈴鹿高専との相互の連携協力及び共同事業の推進に関する協定（H22年3月17日）
豊橋技術科学大学と岐阜工業高等専門学校、沼津工業高等専門学校、豊田工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校との教育研究交流に関する協定書（H23年7月1日）
三重県工業研究所との連携協力に関する協定書調印（H30年1月16日）
和歌山工業高等専門学校と鳥羽商船高等専門学校間における包括連携に関する協定書（H30年3月27日）
鳥羽市との包括協定締結（H30年3月28日） GIGA スクール運営支援 市内小中学校への ICT サポート 農業向け灌漑システム構築支援、ゴミ分別サイト更新 市職員との課題解決オンライン会議
KDDI・KDDI 総合研究所との包括連携協定（R2年11月17日）
三重県における海洋 DX 研究開発・導入の促進に係る産学官連携（R3年3月16日）
中電 CTI との包括連携協定（R4年1月14日）
皇學館大学と包括連携協定（R4年6月24日）
三重県との包括的連携に関する協定（R4年8月31日）
海のシリコンバレー「伊勢志摩海洋研究アライアンス」協定（R4年10月1日）
ローカル 5G を活用した AI 画像認識によるブリ養殖の効率化に向けた実証（R4年度）
三重県を代表機関とする「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」参画
三重県農林水産部からの受託研究 AI・ICT 技術の導入による魚類養殖用疾病早期発見システムの開発
志摩市沿岸域海況ドローン調査を実施
みえスマート水産業研究会 会長
公開講座 ビー玉スターリングエンジン、ことばのイメージとグローバルについて、英語高速学習（中1で英検3級へ）、おもしろ理科実験、IchigoJam でマイコンプログラミング、光を知り、使い、役立てる (天体望遠鏡を作ってみよう & レーザー加工機でモノ作り)、レーザー加工機を用いたアクリルスタンド作成、3D CAD, 3D プリンタ、プログラミング体験講座、はじめての IoT 入門 ハンズオン講座（一般向け）、機械学習入門（画像分類）（一般向け）
出前授業 県内伊勢志摩地区小学校 3 校、・県内伊勢志摩地区中学校 2 校
NPO 法人故郷の海を愛する会 潮騒の神島に渡り、伊良湖水道見学と神島の自然観察 もうすぐクリスマス、遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話

## 6. データでみる財務状況



## 7. データでみる学生の活躍

### 2022年度 学生の活躍記事(本校HP)

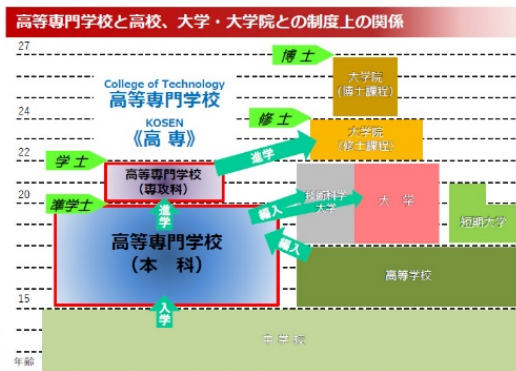
No.	日付	記事タイトル	対象学生	備考
1	2023. 2. 10	観光甲子園でグランプリ受賞！	情報機械システム工学科	
2	2023. 2. 1	パソコン甲子園・GCON2022の受賞報告会を実施	情報機械システム工学科	
3	2023. 2. 1	キャンパスベンチャーグランプリ中部大会で奨励賞を受賞	情報機械システム工学科	
4	2023. 1. 27	第11回高校・高専気象観測機器コンテスト受賞チームが鳥羽市長を表敬訪問しました	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
5	2023. 1. 4	令和4年度日本水産学会中部支部大会において本校学生が優秀発表賞を受賞	専攻科	
6	2022. 11. 10	パソコン甲子園2022のモバイル部門でベストアイデア賞を受賞！	情報機械システム工学科	
7	2022. 11. 10	GNSS・QZSSロボットカーコンテスト2022のオンライン部門で審査員特別賞を受賞	電子機械工学科	
8	2022. 10. 26	本校学生が「ROV設計製作セミナー」に参加	情報機械システム工学科	
9	2022. 10. 26	第33回高専プロコンにて特別賞を受賞	情報機械システム工学科	
10	2022. 10. 26	高専ロボコン2022東海北陸地区大会デザイン賞&特別賞受賞	電子機械工学科 情報機械システム工学科	
11	2022. 7. 27	第57回全国商船高等専門学校漕艇大会を開催しました	カッター部	
12	2022. 7. 27	インターハイに少林寺拳法部が出場	少林寺拳法部	
13	2022. 6. 20	WiCON2021にて本校学生が海洋SDGs大賞を受賞	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
14	2022. 6. 3	本校学生が三重県環境整備事業協同組合主催の「次世代とともに考える閉鎖性海域」にて発表を行いました	制御情報工学科 情報機械システム工学科	
15	2022. 6. 3	DCON2022出場学生が校長先生へ結果報告を行いました	制御情報工学科	
16	2022. 5. 26	2022女子学生エンパワーメント研修への参加報告	商船学科 情報機械システム工学科	
17	2022. 4. 12	AIビジネス創出アイデアコンテストで人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞！	制御情報工学科 情報機械システム工学科	

15歳からの年月をかけて、志をもった学び続ける人を求め、育てます。

高専（KOSEN）は創設当初は中堅技術者の養成を目的に創設されましたが、時代の変化と社会の要請に応え、15歳の中学卒業生を受け入れる本科5年（商船学科は5.5年）の通貫の教育の先には、FAST TRACK としての産業界への就職のみならず国立大学等への大学3年次編入、専攻科進学、さらには大学院進学などの多様な進路を示しながら、実践性と創造性を備えた地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の育成に努めています。技術創造立国を支えている高専卒業生たちのめざましい活躍は、15歳からの早期専門教育が実証するところです。

### 高等専門学校制度の概要 ②

- ◆ 目的・・・深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。
- ◆ 修業年限・・・5年、商船に関する学科は5年6月
- ◆ 入学対象・・・中学校卒業生
- ◆ 教員組織・・・校長、教授、准教授、講師、助教、助手
- ◆ 教育課程等
  - ①一般科目と専門科目をくさび型に配当して、5年間一貫教育で効果的な専門教育を行っている
  - ②卒業要件単位数 167単位以上（商船に関する学科は、147単位以上）
  - ③一学級40人編成、学年制
- ◆ 称号
  - 卒業生には准学士の称号
- ◆ 進学
  - 高等専門学校卒業後、専攻科進学
  - ※あるいは大学編入の途がある
  - ※専攻科修了後は、(独)大学改革支援・学位授与機構の審査を経て、学士の学位取得可

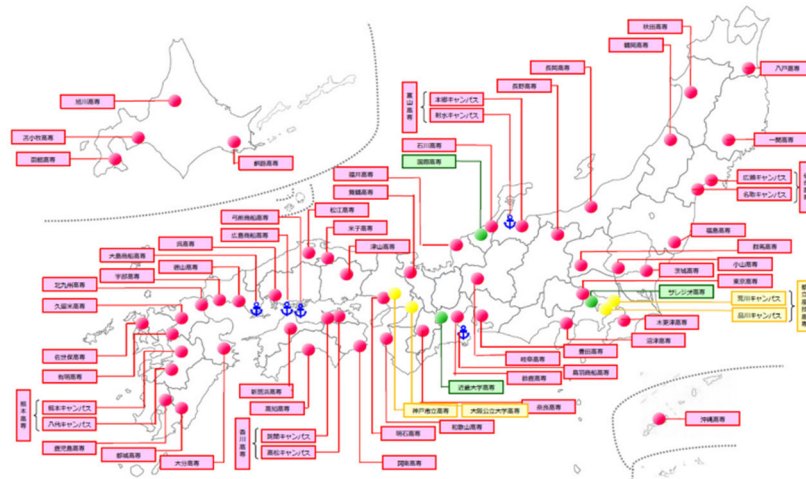


5

### 高等専門学校配置図

● 国立高専 ⇒ 51校、● 公立高専 ⇒ 3校、● 私立高専 ⇒ 3校 【高専合計 ⇒ 57校】  
 ↓ 上記のうち商船高専5校

令和4年9月1日現在



※令和5年4月に私立神山まると高専（徳島県）が開校予定。

6





独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校

517-8501 三重県鳥羽市池上町 1-1 TEL 0599-25-8000 FAX 0599-25-8016

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, TOBA COLLEGE

1-1, Ikegami-cho, Toba-shi, Mie-ken 517-8501, JAPAN



日本語



ENGLISH

2023年（令和5年）3月